

中島組鯨船神徳丸 屋形屋根幕新調事業報告書

(平成31 (令和元) 年度 重無民 鳥出神社の鯨船行事 民俗文化財伝承・活用等事業)



令和3年3月

三重県四日市市
富田鯨船保存会連合会

新調幕全景

左幕



右幕



現行幕全景

左幕



右幕



例 言

- (1) 本書は、国庫補助を得て実施した「平成31年度 重無民 鳥出神社の鯨船行事 民俗文化財伝承・活用等事業」のうち、「屋形屋根幕新調事業」の報告書である。
- (2) 本書の執筆ならびに編集については、富田鯨船保存会連合会（会長 加藤正彦・中島組鯨船神徳丸保存会会長）と百武打敷店及び四日市市教育委員会社会教育・文化財課が共同で行った。
- (3) 重要無形民俗文化財「鳥出神社の鯨船行事」の詳細については、平成14年3月に四日市市教育委員会が刊行した『北勢鯨船行事調査報告書』を参照されたい。

目 次

巻頭カラー 新調幕全景
 現行幕全景

I. 国指定重要無形民俗文化財「鳥出神社の鯨船行事」の概要

- 1. 所有者氏名又は名称 1
- 2. 指定年月日 1
- 3. 指定書の記号番号 1
- 4. 行事の概要 1

II. 修理事業の経過

- 1. 修理に至る経緯 2
- 2. 現状調査及び修理方針の立案 2
- 3. 修理指導委員会 3
- 4. 事業の経過 4

III. 製作報告

- 1. 製作委託 8
- 2. 屋根幕復元新調方針 8
- 3. 製作仕様 8
- 4. 仕様における変更箇所と変更理由 9
- 5. 図案製作仕様 12
- 6. 各工程内容と技法の詳細 15
- 7. 屋根幕の屋形への取付け 24

I. 国指定重要無形民俗文化財「鳥出神社の鯨船行事」の概要

1. 所有者氏名又は名称

富田鯨船保存会連合会
中島組鯨船神徳丸保存会
北島組鯨船神社丸保存会
古川町鯨船権現丸保存会
南島組鯨船感應丸保存会



2. 指定年月日

平成9年（1997）12月15日

3. 指定書の記号番号

第340号

4. 行事の概要

鯨船行事は、伝統的な捕鯨習俗を風流行事の中に取り入れたもので、鯨の発見と追跡、鯨の反撃、鉾打ちなどの所作をストーリーをもって行う行事である。この行事は、四日市市を中心とした北勢地域にだけ分布しており、陸上の捕鯨行事として全国的に貴重である。平成元年（1988）2月27日には、三重県熊野地方の海上の模擬捕鯨行事とともに、「北勢・熊野の鯨船行事」として「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されている。また、平成28年（2016）12月1日には、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」に、全国33の団体の一つとして登録された。

「鳥出神社の鯨船行事」は、他の伝承地が鯨船山車1台で行事を行っていたり、祭礼の練りの一部として鯨船行事が伝承されたりしているような状況と比べ、一つの行事に4台の鯨船山車があり、それぞれが数町から十数町で構成される組単位になっているという特徴を有している。

鳥出神社の鯨船行事では、豪華な装飾が施された鯨船山車、神徳丸・神社丸・権現丸・感應丸（毎年4台のうち2～3台）が曳き出される。8月14日の朝、鳥出神社で各組の関係者による鎮火祭があり、その後それぞれの町で鯨船を曳き回す町練りが行われる。翌15日には、鳥出神社への奉納として境内で本練りが行われる。

鯨船山車は、150以上もの彫刻や幕などの部品で豪華に装飾されており、船体の上には屋形が組まれている。各組の鯨船山車は、寸法、装飾などが異なっており、例えば、船体装飾を大きく占める船体横幕の刺繍は、中島組神徳丸と南島組感應丸は龍と波（神徳丸は昼の穏やかな海を渡る図で、感應丸は夜の荒い海を渡る図）、神社丸は鯨と波、権現丸は千鳥と波となっており、それぞれに個性のある図柄が緋羅紗に施されている。

このように鯨船山車は華麗に装飾されているが、練りの中では、山車を前後左右に大きく動かして海上で船が揺れる様子を表したり、急激に回転させたりと激しい動作をするため、山車の傷みは早い。保存会では、小規模な破損については地元の協力も得て、自前で修復を行いながら行事を続けてきている。

Ⅱ. 修理事業の経過

1. 修理に至る経緯

ユネスコ無形文化遺産に登録された平成28年度頃、4組の鯨船山車それぞれに修理を要望する声を各保存会が上げたことから、富田鯨船保存会連合会として文化庁の補助事業を申請することに向けて、おおよそのスケジュールを下記のとおり計画した。

平成29年度 各組の鯨船山車の現状調査及び修理方針の立案

平成30年度 修理指導委員会を立ち上げ、文化庁と協議

平成31年度 国庫補助事業として修理を開始

2. 現状調査及び修理方針の立案

平成29年度に各組の鯨船山車を調査した。概要は以下のとおりである。

調査日	調査対象	調査
11月20日	中島組神徳丸 横幕及び屋形屋根幕	藤井健三（西陣織会館 顧問） 鬼頭秀明（四日市市文化財保護審議会委員） 久志本まどか（四日市市文化財保護審議会委員）
	南島組感應丸 屋形屋根幕	
11月27日	古川町権現丸 山車船体	野村史隆（鳥羽市教育委員会 嘱託職員） 鬼頭秀明（四日市市文化財保護審議会委員） 久志本まどか（四日市市文化財保護審議会委員）
12月3日	北島組神社丸 装飾部材の彫刻・漆・ 金箔等	山崎 剛（金沢美術工芸大学 教授） 鬼頭秀明（四日市市文化財保護審議会委員） 久志本まどか（四日市市文化財保護審議会委員）

調査の結果を報告書等でいただき、下記のとおり、現状を把握し修理方針を立案した。

修理対象	現状	修理方針案
中島組神徳丸 横幕及び屋形屋根幕	横幕）製作から約50年を経て、経年劣化と応急の修理により、刺繍の欠失や破れなど損傷が目立つ 屋根幕）約100年前の製作とみられ、基布の退色が著しい	横幕）復元新調が適当 屋根幕）復元新調か一部再利用修理か検討
南島組感應丸 屋形屋根幕	製作は大正から昭和初期とみられ、経年劣化により金糸の剥落と変退色が生じている	復元新調が適当
古川町権現丸 山車船体	約100年前の建造と考えられ、基礎の台座に割れが生じている	本体の新造が適当
北島組神社丸 装飾部材の彫刻・漆・ 金箔等	欠損が各所にみられ、漆や金箔の剥落も著しい（塗料による補修箇所は修理可能か不明）	修理（但し、別途詳細な調査が必要）

3. 修理指導委員会

平成29年度の調査を受け、平成30年度に文化庁及び三重県教育委員会と協議を行い、平成31年度より国庫補助による修理事業を開始する見込みとなった。保存会は、「鳥出神社の鯨船行事山車修理指導委員会」を立ち上げ、事業開始に向けた詳細な計画を検討した。

(1) 鳥出神社の鯨船行事山車修理指導委員会（平成30年度）の構成

鬼頭秀明	（委員長）中京大学非常勤講師・四日市市文化財保護審議会委員
久志本まどか	（副委員長）民俗芸能研究者・四日市市文化財保護審議会委員
藤井健三	西陣織会館顧問
野村史隆	鳥羽市教育委員会嘱託職員・元海の博物館職員
山崎 剛	公立大学法人金沢美術工芸大学学長
渡邊繁勝	富田鯨船保存会連合会会長・南島組鯨船感應丸保存会会長
加藤正彦	富田鯨船保存会連合会副会長・中島組鯨船神徳丸保存会会長
鈴木裕也	北島組鯨船神社丸保存会会長
吉田初男	古川町鯨船権現丸保存会会長



(2) 事業着手に向けた委員会の開催

日 時：平成30年10月16日（火）午後1時～3時30分

場 所：四日市市東富田町 東富田会館

出席者：委員（上記委員）

三重県教育委員会 社会教育・文化財保護課 小濱班長・櫻井主任

四日市市教育委員会 社会教育課 川尻課長・葛山課長補佐・吉田主幹

検討・確認事項（概要）

○各山車の修理方針について

・中島組神徳丸横幕及び屋形屋根幕

横 幕）平成20年度から23年度に行った古川町、南島組、北島組の横幕復元新調事業の際に取り決めた「横幕取り扱い基本方針」に基づき、約50年経過した本横幕において、その損傷状況を鑑み、修理方法として復元新調とする。

屋根幕）刺繍の傷みは少ないが、基布の緋羅紗は退色が著しい。屋根の骨組みとなっている木材にも損傷がみられる。約100年前に製作された本屋根幕を原本として保存し、横幕と併せて復元新調することが適当と判断する。

・南島組感應丸屋形屋根幕

屋根全体が金糸の苔によってできている。100年近く経ており、劣化が著しく、復元新調が必要と判断される。但し、今の技術では製作が難しいとみられる箇所があり、復元方法に検討を要する。

・古川町権現丸山車本体

建造から100年近くたつとみられ、時々修理により材や金具、形状に統一性が失われている。最も基礎的な台座に亀裂が生じており、安全性を確保するため、新造することが適当と判断される。

・北島組神社丸装飾部材

装飾部材は、製造後抜本的に修理された様子がなく、部分的に補修されてきた。欠損

部は原状が不明で、漆や金箔の剥落は全般に及ぶ。復元が困難な補修もみられ、抜本的な修理が必要と判断される。山車を組み上げたときにずれが生じる構造的な問題については、別途調査する必要がある。

○修理工程について

・4艘の順序

修理を実施する順序については、保存会の意向に沿いつつ効率性を鑑み修理方法が似通ったものを連続することとし、中島組神徳丸、南島組感應丸、北島組神社丸、古川町権現丸の順とする。なお、緊急性の観点から検討の要望があった北島組神社丸の修理については、別途行う調査の結果をもってあらためて協議することとした。

・実施年度

保存会からは1台につき単年度修理と要望したが、修理の経費は各組とも高額で、かつ施工前の準備期間も必要と見込まれることから、各組複数年の計画とし、最初の中島組神徳丸は平成31（令和元）年度から平成33（令和3）年度までの3ヶ年、以後は2ヶ年ずつの計画とすることとなった。

○平成31（令和元）年度の中島組神徳丸修理について

3ヶ年のうちの1年目は、①横幕の復元新調に係る仕掛け、図柄ひな形作製、②屋形屋根幕の復元新調及び木工修理、③修理指導委員会3回及び製作監修各1回（繊維及び木工）、とした。なお、この時点では、2年目は右横幕製作、3年目は左横幕製作及び事業報告書作成とした。

4. 事業の経過

（1）関係文書・委員会等の経過

〔平成30年度〕

平成31年1月25日 平成31年度（第1回）文化財関係国庫補助事業通知（内示）
1月29日 平成31年度国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金交付申請書提出
3月22日 請負業者入札、百武打敷店に決定

〔平成31（令和元）年度〕

平成31年4月1日 補助金交付決定通知受理
4月2日 富田鯨船保存会連合会と百武打敷店が請負契約締結、着工
令和元年5月15日 第1回修理指導委員会開催
8月14日 鯨船行事町練り等実施（15日の本練り等は台風接近により中止）
9月6日 北島組神社丸山車構造調査
10月4日 第2回修理指導委員会開催
10月7日 計画変更承認申請書提出
11月12日 繊維関係製作監修（工房・百武打敷店）
11月20日 計画変更承認通知受理
12月24日 木工関係（屋根幕）製作監修（工房・マルスエ佛壇）
令和2年1月14日 木工関係（屋根幕）摺り漆の実施判断（工房・マルスエ佛壇）
2月4日 第3回修理指導委員会開催（検収）

2月15日 屋形屋根幕の山車本体取り付け試行
3月21日 屋形屋根幕の山車本体取り付け確認
3月23日 平成31年度国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金実績報告書提出

(2) 鳥出神社の鯨船行事山車修理指導委員会（平成31（令和元）年度）の構成

鬼頭秀明 （委員長）中京大学非常勤講師・四日市市文化財保護審議会委員
久志本まどか （副委員長）民俗芸能研究者・四日市市文化財保護審議会委員
藤井健三 西陣織会館顧問
野村史隆 鳥羽市教育委員会嘱託職員・元海の博物館職員
山崎 剛 公立大学法人金沢美術工芸大学学長
加藤正彦 富田鯨船保存会連合会会長・中島組鯨船神徳丸保存会会長
鈴木裕也 富田鯨船保存会連合会副会長・北島組鯨船神社丸保存会会長
道上秀則 古川町鯨船権現丸保存会会長
渡邊繁勝 南島組鯨船感應丸保存会会長

なお、北島組山車構造調査に係り、臨時委員を委嘱した。

二宮義信 建築士（元長浜市職員 民俗文化財担当）

(3) 修理指導・監修の記録 ※屋形屋根幕に関わることのみ記述する

①第1回鳥出神社の鯨船行事山車修理指導委員会

日時 令和元年5月15日（水）午後1時15分～3時35分

場所 四日市市東富田町 東富田会館

出席者 修理指導委員会 鬼頭委員長・久志本副委員長・藤井委員・野村委員・山崎委員・
加藤委員・鈴木委員・道上委員

文化庁文化財第一課 小林主任文化財調査官

三重県教育委員会社会教育・文化財保護課 小濱班長・小原主任

四日市市教育委員会社会教育・文化財課 川尻課長・葛山課長補佐・三厨主幹

請負業者 百武打敷店

検討・確認事項（概要）

○中島組神徳丸屋形屋根幕修理について

・スケジュールの確認、仕様の確認及び部分的な見直し

○北島組装飾部材について

・二宮臨時委員に構造調査をしてもらい、その結果をもって次回委員会で修理時期、修理方法などを協議、とする

②第2回鳥出神社の鯨船行事山車修理指導委員会

日時 令和元年10月4日（金）午後1時45分～3時45分

場所 四日市市東富田町 東富田会館

出席者 修理指導委員会 鬼頭委員長・久志本副委員長・藤井委員・野村委員・山崎委員・
加藤委員・道上委員、（代理）渡辺氏（北島組）・伊藤氏（南島組）

三重県教育委員会社会教育・文化財保護課 小原主任

四日市市教育委員会社会教育・文化財課 葛山課長補佐・三厨主幹

請負業者 百武打敷店

検討・確認事項（概要）

○北島組神社丸山車構造調査について

- ・ 9月6日に二宮臨時委員によって調査、小原主任、葛山、三厨が立会い
- ・ 経年の歪みによりかみ合せが悪くなった。無理をすると材を傷める。演技中に外れないよう固定方法を検討し、応急措置をすれば現状維持できると想定
- ・ 神社丸の修理は、計画通り南島組の後、令和6年度開始とする

○中島組神徳丸屋形屋根幕修理について

- ・ 仕様の部分的な見直しについて確認
- ・ 生地押さえ木枠の朱漆は、どういう色の組合せで作るか、試作して色見を保存会が確認して決定、とする
- ・ 製作途中の刺繍確認により、龍の火炎部分は現品との相違があり直しを指示

③製作監修（工房・繊維）

日 時 令和元年11月12日（火）午後1時15分～3時40分

場 所 愛知県愛西市 百武打敷店

監修者 修理指導委員会 藤井委員

立会い 保存会 加藤会長、市教委社会教育・文化財課 葛山課長補佐・三厨主幹

指導・確認事項（概要）

○屋形屋根幕刺繍について

- ・ やり直した龍の火炎部分を確認、可とする。他の部分も認定
- ・ 復元の基本は現品に基づく。龍の盛り上げを現品に合わせる
- ・ 龍のひげのうねり方、形は現品のとおり。先端は幕に埋め込み、演技中に引っ掛けないようにする
- ・ 龍の目玉は、墨に粘着性のあるものを混ぜて裏側に塗ることで了承

④製作監修（工房・木工）

日 時 令和元年12月24日（火）午前10時～10時50分

場 所 三重県木曽岬町 マルスエ佛壇

監修者 修理指導委員会 山崎委員

立会い 保存会 加藤会長

市教委社会教育・文化財課 葛山課長補佐

指導・確認事項（概要）

○格天井大組について

- ・ 漆塗りを確認、可とする

○棟木について

- ・ 漆下地塗り、和釘留め確認、可とする
- ・ 金箔の上に摺り漆を施すか、見本を作って保存会が確認し決定、とする

○生地押さえ木枠について

- ・ 現品が短く細工されているが全体を復元、下地塗り確認、可とする
- ・ 朱漆の色について、2種類の色見を確認し、出席者合意の上、決定



⑤施工方法の検討（工房・木工）

日 時 令和2年1月14日（火）午前10時～10時40分

場 所 三重県木曾岬町 マルスエ佛壇

立会い 保存会 加藤会長、市教委社会教育・文化財課 葛山課長補佐

確認事項

○摺り漆加工について

- ・金箔の上に摺り漆を施したものと施さないものを見比べ、金箔の光沢が失われない後者
とすることで保存会が決定

⑥第3回鳥出神社の鯨船行事山車修理指導委員会

日 時 令和2年2月4日（火）午後2時～3時40分

場 所 四日市市東富田町 東富田会館

出席者 修理指導委員 鬼頭委員長・久志本副委員長・藤井委員・野村委員・山崎委員・
加藤委員・鈴木委員・道上委員、（代理）伊藤氏（南島組）

三重県教育委員会社会教育・文化財保護課 小濱班長

四日市市教育委員会社会教育・文化財課 葛山課長補佐・三厨主幹

請負業者 百武打敷店

検討・確認事項（概要）

○屋形屋根幕の検収について

- ・幕及び木工の完成品を確認、完了と認める
- ・屋形への取り付けについて、微調整は現場で行い事後に委員へ報告する
（取付けの報告は、P24「7. 屋根幕の屋形への取付け」を参照）

（4）事業費に係る収支報告（平成31（令和元）年度）

※屋形屋根幕復元新調の他、横幕復元新調に係る準備経費等も含む

① 収入の部

科 目	収 入 額
保存会負担	589,214円
国・県・市補助金	1,920,000円 (内訳) 国 1,200,000円 県 240,000円 市 480,000円
合 計	2,509,214円

② 支出の部

科 目	支 出 額
製作請負費	2,190,056円
委員会費等	319,158円
合 計	2,509,214円

1. 製作委託

百武打敷店	愛知県愛西市大井町石池106番地
店 主	百武 信子
技術者	百武 弓弦（祭屋台等製作修理技術者会会員）

株式会社マルスエ佛壇 愛知県弥富市鯛浦町南前新田184-3
代表取締役 伊藤 俊克

屋根幕は、左右一対2枚を各々の格天井大組に釘張りし、それぞれ棟木一対2本でビス止め固定して構成される。幕の形状および刺繍図案は、原則として現行幕のとおりに復元し製作する。ただし、幕の装着および刺繍図案の美観を勘案し、必要と認められる仕立ておよび木工部の仕様・寸法については、監修委員の指示を仰ぎ、保存会の意向を踏まえ、協議の上決定する。

〔刺繍幕〕

現品寸法（概寸）

- ・左幕 外寸 縦 625mm × 横 1112mm
(四方覆輪部 巾 8mm含む)
- ・右幕 外寸 縦 625mm × 横 1112mm
(四方覆輪部 巾 8mm含む)

・左幕 外寸 縦 620mm × 横 1130mm
(上辺、左右辺覆輪部 巾10mm / 下辺覆輪部18mm含む)

・右幕 外寸 縦 620mm × 横 1130mm
(上辺、左右辺覆輪部 巾10mm / 下辺覆輪部18mm含む)

経年使用による生地の変形が見られ、格天井大組の寸法と合っていない。このため、格天井大組の木枠を採寸し、最適な仕立て寸法で製作することとした。

なお、下端の木杵については屋根幕の構造上、斜めに切り込んだ形状のため、縁に釘で固定する十分な厚みがない。したがって、裏生地 of 覆輪部を現品より 1 cm ほど太く仕立て、釘を打つ位置も現品の固定位置より 1 cm ほど内側で木杵に打ち、屋根幕を固定した。

また、釘の打ち込み間隔は、経年使用による基布の縮みと変形を勘案し、現品より狭めて4.5cmに統一した。

(2) 素材

表生地 緋羅紗（織フェルト1.4mm厚 ウール90% / ナイロン10% 目付700g/m²
堅牢染め 撥水加工品）

裏生地および表四辺覆輪部 木綿平織キャンパス地（黄色生地）

刺繍糸 本金糸（本金山吹4号箔 純金94.43% 純銀4.91% 純銅0.66%）
生絹糸（国産絹100% 28デニール / 14片）

刺繍綴じ糸 フジックス タイヤー 正絹ミシン糸 50番

飛龍（切付）取付糸 フジックス シャペスパン ポリエステルミシン糸 30番・50番

仕立て糸 テイジン ダイヤフェザーテترون ポリエステルミシン糸 40番

その他

①飛龍（切付）の盛り上げ

- ・切付刺繍作製時の盛り上げ箇所の肉入れ 生成り綿（綿100%）
- ・切付の基布への取り付け時の全体の肉入れ 混紡綿（綿90% ポリエステル10%）

②飛龍の髭 芯材（針金Φ1.0mm）に罫紙（太さ調整用）、本金糸5掛を巻き付け加工

③飛龍の目玉 ソーダ石灰カリガラス

(3) 刺繍技法（刺繍図案 瑞雲と波濤に飛龍）

a 飛龍 駒縫い（切付）

b 瑞雲と波濤文様 駒縫い（基布に直縫い）

※個々の図案の刺繍仕様の詳細については後記「5. 図案製作仕様」を参照

(4) 仕立て仕様 表生地を裏生地で包む覆輪仕立て

〔木工部〕

(1) 寸法（概寸）

格天井大組（2組）	外寸 縦 620mm × 横 1125mm
格子杵木（長手6本×2組）	厚さ9mm 巾17mm 長さ1070mm
（短手12本×2組）	厚さ9mm 巾17mm 長さ583mm
生地押さえ（左右一対2本×2組）	厚さ5mm 巾17mm 長さ620mm

(2) 素材及び塗工

棟木（雲彫り）と鬼板（左右一対2本×2組）	檜材 本漆塗り（立塗り）
格天井大組（長手6本×2組、短手12本×2組）	檜材 本漆塗り（立塗り）
生地押さえ（左右一対2本×2組）	檜材 本漆朱塗り（立塗り）

4. 仕様における変更箇所と変更理由

〔刺繍幕〕

(1) 表基布

現行幕 緋羅紗

経年劣化が進み生地がかなりやせているため、正確な生地厚は不明である。

新調幕 緋羅紗

経年使用の耐久性を勘案し、生地は1.4mm厚とし、耐水・退色劣化を抑えるため、撥水・堅牢染め加工を施したウール地織フェルトを使用することとした。

(2) 飛龍（切付）の目玉

現行幕 セルロイド樹脂材

経年使用と保管時の防虫剤などの影響で、表面の摺り傷と樹脂の白濁曇りが著しい。

新調幕 ソーダ石灰カリガラス

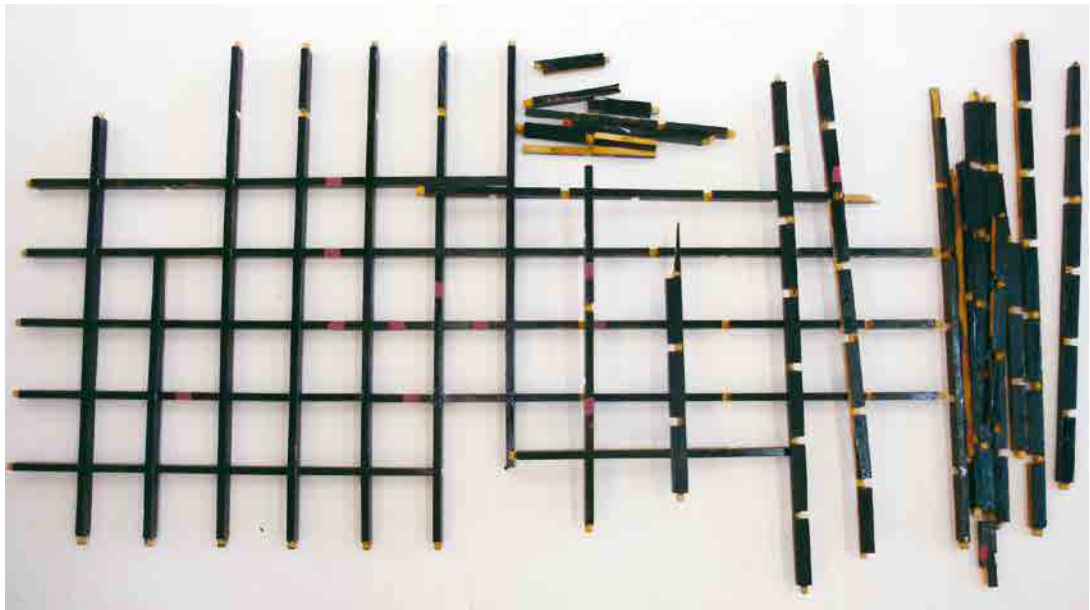
セルロイド樹脂材と比較して透明度と硬度が高く、薬剤による化学反応がないソーダ石灰カリガラスを使用することとした。

ただし、衝撃による破損の恐れがあるので、祭礼時と保管時の取扱いには十分留意する必要があることを保存会に周知した。

〔木工部〕

(1) 格天井大組 格子枠木

当初の見立てでは、損傷した枠木は、左右幕の長手6本ずつ計12本と短手4本であったが、分解時に全ての枠木が損傷していることが判明したため、強度を考慮し、左右幕の長手6本ずつ計12本に加え、短手12本ずつ計24本を国産檜材で新調した。



現品（損傷していた枠木）

(2) 生地押さえ木枠

左幕（向かって右端辺）、右幕（向かって左端辺）の生地押さえ木枠の上部が欠損しており、継ぎ足し補修を予定していたが、協議の上、強度と美観を勘案して、新調することとした。また、朱漆については、サンプル色から現品色に合わせて、最適な調合顔料の淡口レーキを採用した。



現品（欠損していた木枠）



朱漆レーキ顔料 左（淡口+本朱）、右（淡口）

（3）棟木の鬼瓦の取付け部品

現品は市販のクロームメッキ皿ネジでビス止めしてあるが、美観を考慮して金メッキ真鍮和ねじを採用した。



現品（修理前）

5. 図案製作仕様（刺繍幕）

刺繍基布および刺繍素材については、修理指導委員会の委員に現行幕と同等もしくは類似品のサンプルを確認していただき、了承を得た。また、刺繍技法については、藤井委員に監修、指導をいただき、現行幕に忠実に刺繍を施した。

（1）飛龍（切付 手刺繍）

部 位	加工技法	素 材
顔	駒縫い	本金4号色（8～9掛） 綴じ糸 / 正絹赤紫色（色番11） （紙紐と綿で下地の線描と肉入れ加工）
胴体（背）、 足、翼、角	駒縫い	本金4号色（7～12掛） 綴じ糸 / 正絹赤紫色（色番11） （紙紐で下地の線描加工）
口髭、顎鬚、 背鰭、翼の筋	駒縫い	本金諸撚り4号色（4～6掛） 綴じ糸 / 正絹赤紫色（色番11）
胴体（腹）	駒縫い	本金諸撚り4号色（4掛） 綴じ糸 / 正絹赤紫色（色番49）
足鰭	駒縫い	正絹錆緑色唐撚り糸（5本×1本） 綴じ糸 / 正絹錆緑色（色番51）
火炎	駒縫い	本金4号色（6掛）と正絹朱赤色（7本）の 空糸 綴じ糸 / 正絹赤色
髭	針金に金糸コイル巻	針金（Φ1.0mm）、罎紙（太さ調整用）、 本金4号色（5掛）
眉	駒縫い	正絹黒色諸撚り糸（2本×2本） 綴じ糸 / 正絹黒色
目玉	黒目に黒色彩色、白目 に綿入れして嵌入	現 品 セルロイド樹脂 新調品 ソーダ石灰カリガラス

飛龍（切付） 新調品



顔



胴体



翼、足



火炎



目玉（現品 セルロイド樹脂）



目玉（新調品 ソーダ石灰カリガラス）

(2) 瑞雲、波濤（基布に直縫い 手刺繍）

部 位	加工技法	素 材
瑞雲	駒縫い	本金4号色（12掛） 綴じ糸 / 正絹赤色
波濤	駒縫い	本金4号色（12掛） 綴じ糸 / 正絹赤色

新調品



瑞雲



波濤

6. 各工程内容と技法の詳細

〔刺繍幕〕

(1) 現品分析、材料選定および調達（平成31年4月～令和元年5月）

①刺繍糸選定

現品に使用されている金糸、正絹糸、綴じ糸の種類、色目、太さを分析し、入手できる最適な素材を調達する。（修理指導委員会にて採択承認）

②基布選定

現品に使用されている生地の色目、織組織を分析し、入手できる最適な素材を調達する。
経年使用の耐久性を勘案し、表基布はウール地織フェルト1.4mm厚とし、耐水・退色劣化を抑えるため、撥水・堅牢染め加工を施す。（修理指導委員会にて採択承認）

(2) 刺繍の下絵および構図の作製（平成31年4月～令和元年5月）

①飛龍（切付）

現品の飛龍の図案をコピーし、細部の描線を図案に忠実に補正しながら下絵を作製する。切付刺繍を基布に取り付ける際の、肉綿入れによる切付の縮小割合を勘案し、飛龍の構図は約5%大きめに作製する。

②瑞雲と波濤文様（基布直縫い）

現行幕の図案を洋紙に摺り出した後、描線を図案に忠実に補正して下絵を作製する。刺繍のほつれている箇所は、オリジナル描線を想定して周辺の図案とのバランスをとりながら適宜修正を施す。



(3) 飛龍（切付）の製作（令和元年6月～12月）

①作製された飛龍の下絵を、刺繍台に張ったさらし布に糊貼りする。



②描線に沿って金糸を駒縫いで丁寧に綴じ付けていく。紙紐で輪郭をとってある箇所は、現品の紙紐の太さに合せて、描線に忠実に紙紐を綴じ付け、各部の輪郭を形作ってから駒縫いで刺繍糸を綴じ付けていく。また、顔の凹凸は、肉入れ用の真綿を要所に入れて、肉入れ部分の下地を作製してから、金糸を綴じ付けていく。



③刺繍作業が完了したら、刺繍部裏面の全面に仕上げ糊を塗り、完全に乾かす。



④切付を切り抜き、縁周りの余分なさらし布を裏側にのり付け処理する。



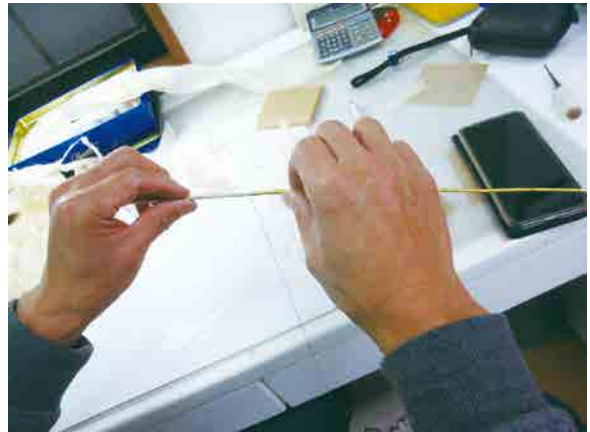
⑤飛龍の髭の製作

髭の太さを調整するため、芯材の針金に先端部から根元部に向かって、罫紙を何重にも糊付けしながら巻きつける。芯材の針金は、波状のなめらかな形を作りやすいように細めの針金を使用した（針金の太さ Φ1.0mm）。

本金糸を糊付けしながら隙間が空かないようにしっかり針金に巻きつけていく。本金糸は先端部から根元部に向かって巻く。

完成した髭は、現行幕に忠実に波状の形状を作りながら、基布に縫い付ける。

また、経年使用による形状の変形を防ぐため、先端部は基布に差し込み固定した。



完成状態

(4) 瑞雲と波濤文様刺繍（基布に直縫い）の製作（令和元年11月～12月）

①作製された下絵の描線を胡粉で基布に落とし、図案を忠実に基布に描写する。



②基布の描線に忠実に、図案を金糸の駒縫いで刺繍する。金糸の太さと本数および影縫いの間隔については、現品に忠実に刺繍を施す。



(5) 飛龍（切付）の基布への取付け（令和元年11月～12月）

瑞雲と波濤文様（基布に直縫い）の刺繍作業と平行して、切付刺繍で製作された飛龍に目玉を取り付け、下紙の位置に忠実に基布に綴じ付ける。その際、切付刺繍の下に肉入れの綿を適量入れ、全体の形を整えながら綴じ縫いしていく。



(6) 仕立て（令和2年1月）

現品は経年使用による表基布の縮みが著しく、格天井大組の木杵より小さくなってしまっている。また、木杵に装着固定用の釘の間隔が一定でなく、覆輪部が波状になっている。

美観と経年使用による表基布の変形を勘案し、格天井大組の木杵の大きさに合せて、最適な寸法で仕立てる。ただし、下端の覆輪部については、斜めに切り込んだ木杵の形状により、幕を固定する釘を打つ位置を1cmほど内側で打つため、覆輪部の巾を1.8cmとして仕立てる。

①刺繍部分の芯地用の裏あて生地（綿さらし布）を残し、余分な生地を切りぬき、取り除く（この処理により、経年使用による基布の縮みによって起こる刺繍部分のひずみを、裏あて生地がある程度吸収することができる）。

②仕立て型紙に忠実に表基布を裁断し、裏生地（黄色木綿生地）を付けて、表基布の四隅を包んでミシン裁縫を施す。



③格天井大組の木杵に幕をのせて、覆輪部に等間隔（4.5cm）で真鍮釘を打ち、幕を固定する。



④左右端に生地押さえの木杵を真鍮釘で打ち、固定する。

棟木を、刺繍部の左右の所定の位置に配置して、裏面の格天井大組の杵木にビス止めする。



完成写真（左幕）



完成写真（右幕）

〔木工部〕

（１）棟木（雲彫り）と鬼板 本漆塗り（立塗り） （令和元年11月～2年1月）

①疵繕い（本堅地）

疵を堅地錆で繕う。

②研ぎ

ペーパーで段差を無くし滑らかにする。

③下地固め（生漆）

生地で下地を固める。

④固め研ぎ

表面をペーパーで滑らかにする。

⑤中塗り（箔下漆）

中塗り漆を刷毛で塗る。

⑥金箔押し（本金1号箔）

箔押し漆で摺り漆をし、金箔を押し。

（２）格天井大組 本漆塗り（立塗り） （令和元年11月～2年1月）

①木地固め

木地を生漆で固める。

②固め研ぎ

表面をペーパーで滑らかにする。

③中塗り（立漆）

中塗り漆を刷毛で塗る。

④中塗り研ぎ

中塗り研炭で水研ぎする。

⑤上塗り（立漆）

上塗り漆を刷毛で塗る。

（３）生地押さえ 本漆朱塗り（立塗り） （令和元年11月～2年1月）

①木地固め（生漆）

木地を生漆で固める。

②固め研ぎ

表面をペーパーで滑らかにする。

③錆付け（本堅地）

堅地錆をヘラ付けする。

④錆研ぎ

研石で水研ぎし、滑らかにする。

⑤錆固め（生漆）

研き上がり面を生漆で固める。

⑥固め研ぎ

表面をペーパーで滑らかにする。

⑦錆付けから固め研ぎ工程を、もう一度繰り返す

⑧中塗り（朱淡口レーキ顔料）

中塗り漆を刷毛で塗る。

⑨中塗り研ぎ

中塗りを研炭で水研ぎする。

⑩上塗り（朱淡口レーキ顔料）

上塗り漆を刷毛で塗る。



新調品（棟木）



新調品（和ねじ修理後）



金メッキ真鍮和ねじ



新調品（格天井大組）



新調品（木地）



新調品（生地押さえ 朱漆加工）

7. 屋根幕の屋形への取付け

〔現地作業〕

日 時：令和2年3月21日（土）午前10時～12時

場 所：四日市市東富田町 中島組神徳丸収蔵庫

〔経 過〕

先の2月15日に、完成した屋根幕の最初の取り付けを試みたが、朱漆の生地押さえ木枠が大棟の鬼瓦と干渉することによって幕を取り付けることができなかった。



生地押さえ木枠（切除前）



生地押さえ木枠（切除後）



現行幕では、後ろ側になる片方の生地押さえ木枠の一部を切除して取り付けていたが、新調幕では前後両側とも切除しないと取り付けられない状況が生じた。

百武打敷店より山崎委員へ状況を連絡したうえで、生地押さえ木枠両端の上方を切除する加工を施し、3月21日に再度、作業を行い、取り付けた。

今回の修理事業や市による鯨船山車実測時に判明したことなどを踏まえ、山車の現在の状態について推測すると、経年による内梁、大棟等の木材伸縮に伴う歪みや劣化、また屋形の組み立て方法（左右の別、臍の欠損、紐など固定の仕方等）の経時的な変化など、いくつかの要因によっ

て生地押さえ木杵が大棟鬼瓦と接触するようになり、30年ほど前に地元で簡易修繕を行ったが、そのままの状態では組み立てられなくなってしまったと考えられる。

今後については、切除した木杵は保存会で保存し、屋根が上手く嵌まるように組まれ幕が正しく収まるようになったときにはあらためてこの木杵の一部を付け直すことも可能だと思われる。



幕を屋根に取り付けた状況



生地押さえ木杵と大棟鬼瓦が干渉する部分

令和 3 年 3 月 19 日 発行

中島組鯨船神徳丸屋形屋根幕新調事業報告書

平成31（令和元）年度 重無民 鳥出神社の鯨船行事
民俗文化財伝承・活用等事業

編集 富田鯨船保存会連合会
百武打敷店

四日市市教育委員会

発行 富田鯨船保存会連合会

印刷 阿竹印刷工業株式会社